

日時:2014年7月31日、14時~16時30分

参加者:飯塚、加茂、小杉、鈴木、福島、福田 + 小池(安・安部会) (敬称略)

特記事項:北部公園緑地事務所から和田さん(青葉区担当)と内山さんが説明員として参加戴き、寺家ふるさとの森の概要・特徴と森に息づく動植物につき丁寧な説明を受けた。

1. 「寺家ふるさと村」と「寺家ふるさとの森」の違い

「寺家ふるさと村」の南西部の11.7haの森が「寺家ふるさとの森」。「寺家ふるさと村」は、「四季の家」の北側から水車にかけても森が続くが、ここは「寺家ふるさとの森」ではない。因みに、後述の様に「寺家ふるさとの森」には3つのため池があるが、「寺家ふるさと村」にはもう二つのため池(「新池」「居谷戸池(いやと)»)がある。又、寺家ふるさと村の西側は町田市と接しており、ここにも広大な森が残されているが、横浜市では無い為、この森も「寺家ふるさとの森」ではない。

要は、横浜市環境創造局が指定する「寺家ふるさとの森」に隣接している北側にも広大な森が残されており、寺家の「森」は11.7haよりもっと広く感じる。

2. 熊野池の駐車場

土用の丑の日の翌々日、炎天下、「寺家ふるさとの森」の熊野池(釣り堀)の駐車場に集合。歩き始める前に、近くの木陰に設置されたこの森の紹介ボードの前で、北部公園緑地事務所の方々から、以下の様な寺家ふるさとの森の説明を聞く。(写真:下)



- この場所は多摩丘陵の真ん中に位置する (注 多摩丘陵:西は高尾山東麓から南は円海山緑地)
- 一つの地域で3つのため池(熊野池、大池、むじな池)が現存するのは横浜では珍しい
- 様々な動植物が生息出来る様な環境に留意して森を管理しているが、陽が当たる南側とそうでない北側では森の様子が異なる
- 今年の6月はオカトラノオ(丘虎の尾)が群生した、今はあちこちに咲いているヤマユリを楽しんで欲しい

なおこの日は、森の中の一角でウバユリ(写真:右)の群生を見る事が出来た。大変幻想的な光景だった。また、別の場所では、繁殖を保護しているキツリフネ(黄釣船)の小さな群生も見ることが出来た。



3. 熊野神社に

右手に水田を見ながら、森の南側の舗装された道を、森の東端の熊野神社に向かう。途中、大輪のヤマユリが咲いていた。神社の境内に入るには急な石段を上がらなければならない(写真:左)。階段の麓に可憐な紫色の花。夏から咲くがアキノタムラソウ(秋の田村草)と云い、茎の断面は四角でシソ科の植物だそうだ。以降も、内山さん、和田さんから寺家ふるさとの森に生息する昆虫、植物につき、見つけるたびに大変丁寧な説明を受けた。



急な石段を登り切って一息ついてから、寺家について以下の話を聞く。

- ・鎌倉時代から鴨志田一族、後に大曾根、金子一族が治めた歴史のある場所
- ・全国に寺家の名称は8ヶ所あるが、7ヶ所はここと同じジゲと発音、1ヶ所だけジゲと発音

この境内の外れには大きなモミの木がある。樹齢170年と推計され、横浜市から名木古木に指定されている。

4. 熊野神社から「寺家ふるさとの森」の正面口(?)に

熊野神社のもう一つの出入り口は坂道で、そこを下り森の北側を東西に走る幅2m程の舗装道路に出る。右手は整備された疎水、その先は水田が広がる。水田の先(北側)も大きな森が見えるが、その森は「寺家ふるさとの森」では無い。

道の左手は木々に深々と覆われた丘が連なり、その為道路は日陰となり、炎天下の午後なのに風が心地よい。道路脇は、種々の植物が繁茂しており、道すがら教えて戴きメモ出来た植物を列挙すると;



匂いがきついので可哀そうな名前のヘクソカズラ(屁屎葛)、まだ咲いていたオカトラノオ(丘虎の尾)(写真:左)、紅色の小さな実が可愛いナワシロイチゴ、白色の小さい花が広がっているシシウド。

3時をまわっている為か、森の奥の方からヒグラシの元気な甲高い鳴き声が聞こえてくる。200m程歩くと「寺家ふるさとの森」と書かれた細長い標識。そこから森に入り、森の保全について説明を受ける(写真:左)。



針葉樹の林で、この一角は3年前から計画的な間引きを始めたとの事。あちこちに切り株が残っている。間引きのお陰で風通しが良くなり、ある程度の陽が降りそそぎになったので、今年の4月に、適度な湿地に生育するヤマドリソウが多く開花した、と和田さんがうれしそうに話してくれた。

5. むじな池を経て大池に

東西に走る舗装道路に戻り歩き始める。右手に広がる水田(写真:右)にはアカトンボの群れ。その中、内山さんが「チョウトンボだ」とカメラを構える。黒いトンボで滅多に見られないようだ。ウグイスの鳴き声も聞こえてくる。



水田の北側は町田市。その為「向こうの森は、横浜市独特の制度の寺家ふるさとの森ではない」と、内山さん。行政区の垣根を越えた緑の保存、は考えられないか?と素朴な疑問がわく。

直にむじな池に到着し、森に囲まれた池を半周して大池に向かう。大池までの道は車も通れる道幅で、町田市と横浜市の境でもある。三番目の大池では赤茶色のカイツブリがゆっくりと泳いでいた。この水は濁っているが、普段は沢山のカメが甲羅干ししているようだ。池の右手をめぐる道から森の中に進む。連続的な甲高い鳥の鳴き声が聞こえる。コジュケイだそうだ。池からはあの太い声のウシガエル(牛蛙)の鳴き声も。

6. 森を抜け尾根道を歩いて熊野池に戻る

森の中には細いけれど道が整備され歩き易い。左右は小高い丘で周囲は木々に囲まれている。誰かさんが呟いた。「渋谷から電車で30分位の所に、こんなに自然が残っているなんて!」。本当にその通り、と思う。この森は大切にしなければいけない。



森の端から、急で長い階段を登る(写真:左)。高低差は30m程あるのではないか? 寺家ふるさとの村の南端の尾根道に出る。東方面に向かってこの尾根道を歩く。右手は背丈以上の笹藪が続く。この笹藪の奥は深い森みただ。左手も木々に覆われているが、急な

斜面の様だ。

尾根を離れ階段を下り、再度森の中を歩く。途中にベンチやテーブルも数か所設置されており、緑に囲まれた絶好の散策コースだ。コナラに産み付けられたシロスジハナカミキリの産卵痕(写真:右)を教えて戴いたり、ニイニイゼミの可愛い抜け殻を見つけたりとしている内に、出発地点の熊野池の駐車場に到着した。



7. まとめ

約2時間半のコースであったが、途中あちこちで立ち止まり説明を受けた為、また、炎天下とはいえ森の中が多かった為、皆さん元気にスタート地点に戻ることが出来た。北部公園緑地事務所のお二人からの場所、場所での適格な説明のお陰で、身近な寺家ふるさと村の「寺家ふるさとの森」の奥深さを体感出来た。内山さんと和田さんに改めてお礼申し上げます。

以上